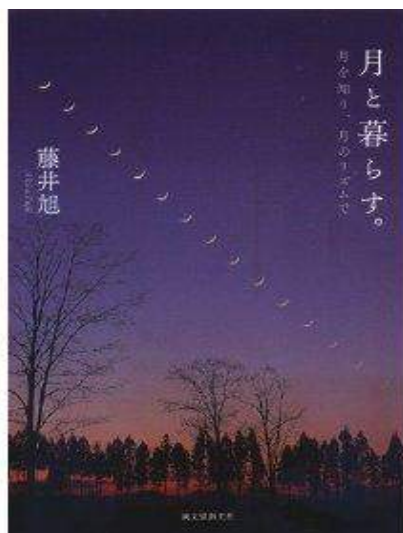


2011年12月号 平成23年12月7日(増補版)発行

愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター

Aichi Gakuin University Dental and Pharmaceutical Library and Information Center

〒464-8650 名古屋市千種区楠元町1-100 TEL052-751-2561 (内線1621~1623) <http://www.slib.aichi-gakuin.ac.jp/>

《今年印象に残った本は?》

学生の皆さん、日々の勉学は捗っていますか? 勉学の合間には、時には良書を読む必要もあります。

皆さんは今年、良い本に出会いましたか? 今回は今年印象に残った本を1冊紹介させていただきます。

「月と暮らす。月を知り、月のリズムで (藤井旭著)」

源氏物語、枕草子、竹取物語など平安時代の文学と切っても切れない月。中秋の名月、三日月、十五夜、十六夜(いざよい)、有明の月、というような個々の様々な名称で呼ばれる月の説明。

月までロケットで何日かかるか、学問としての地学で扱う月世界。

明治の始めまでの太陰暦を使った暮らしのサイクル。これらのことをほとんど網羅的に解説している本です。構成は、開くページ毎に美しい写真か図入りの文章で、見る人の目を楽しませてくれます。

因みに、12月10日(土)に皆既月食があるそうです。23時くらいから約1時間。気になる天気は 🌤️。

《本阿弥光悦のこと》

京都には未だに仏教関係の寺や仏像がたくさん残っています。過日、光悦のお墓のある光悦寺と、本阿弥家の菩提寺である本法寺に行ってきました。

光悦は、江戸時代初期、徳川家康より鷹ヶ峰の一角を拝領し、そこに光悦村という芸術村を作りました。そこで、書物、工芸品、陶器などを作成しました。中でも「不二山」という抹茶茶碗は国宝で、今でも諏訪湖畔のサンリツ服部美術館で見ることができます。

また、光悦は熱心な法華経信者であり、位牌堂を建立し、それが後に光悦寺になったそうです。いつの世にも、お釈迦様の存在は偉大です。

本法寺の方は、大徳寺と御所を直線で結ぶとちょうど真ん中くらいにあります。本阿弥家の菩提寺であり、光悦作とされる枯山水庭園「三つ巴の庭」が有名です。



光悦がデザインした光悦寺の光悦垣